

自己評価票 1丁目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は、事業所独自の理念をつくりあげ、その人らしさの暮らしを継続できるように努めているが全員が理念を理解しているかは定かでない。	○ 職員の入れ替えがあり、オリエンテーションでは説明するが全員への周知が不十分である。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、ユニット会議で理念を振り返る時もあるが日々話しているわけではないので忘れる時がある。	○ 業務に集中し、早く終わらせたいという気持ちが先行している。理念を常に思って業務ではなく介護である事を認識できるようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者、家族、訪問者に理解してもらえよう理念を掲示している。地域においては会議で理解してもらえよう取り組んでいる。	○ 家族への説明ができていない。理解していただくよう記載してある用紙を渡していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の加入して地域行事に参加し交流を深めるように努めている。納涼祭では、町内の方へのボランティアを呼びかけ食事準備を手伝ってもらい等成果が得られている。地域の認知症普及活動については参加していない。	○ 地域行事への参加は機能低下が進んでない方が参加できている。機能低下がある利用者では無理がある。普及活動については当施設は設立の年数はあるが基盤はできていないと思われ見合わせたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行なう事は日々提供しているケアサービスを振り返る機会でもある。職員一人ひとり作成したものをまとめて完成させている。評価を活かした改善には取り組めていない。	○	評価を勤務に活かしていくためにも全職員に周知していく必要がある。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員・地域包括支援センターの参加により、サービス向上に活かしている。話し合いの内容については職員は、文章でしか把握していない。	○	迷うことや悩む事について意見を出してもらえるので良い。ただし、会議の内容がこのままで良いのか他の事業所はどのような内容で行なっているか包括支援センターに問いかけている。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果報告し、ホームの現状を伝えている。また、権利擁護事などについて相談することもある。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者自ら成年後見制度について学び研修に参加し、相談できるルートを確保しており支援を行なう体制を整えている。職員にも伝達研修で理解を深めている。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待について学ぶ機会をもち理解を深めているが迷う事は多々ある。疑われる場合は管理者に報告する流れとなっている。	○	1.2回の研修では勉強したとは言いがたい。具体例を上げて再度、研修を行なっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や重要事項説明書に基づいて方針等を利用者や家族に説明し、同意を得ている。また、契約改定時にはその都度家族等に説明している。家族から質問を受ける事がほとんどない。	○ 契約書の中には拘束の事も記載されているが、骨折したときにベット柵がなかったからではとキーマンとなっていない家族に指摘され、疑問を投げかけられた。運営推進会議で意見を聞いたこともある。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱設置している。利用者が直接職員に言い表せない事が多く、日頃から家族へ本人の不満、苦情を伝えてもらえるようお願いしてある。問題に対しユニット会議で意見を出しあうか、また早期解決に向け各ユニットにあるノートを活用し早期に意見を求める場合もある。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会を通じて利用者の暮らしぶり、健康状態を報告している。金銭管理状況は個人ごとの出納帳に記録し毎月報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱設置、面会時には積極的に声掛けを行なうなど、家族の意見や要望を聞くようにしている。家族から要望等が出された時は会議や各ユニットごとのノートに記載し意見を求め早期に解決できるようにしている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やユニット用のノートを活用し意見、提案を聞く機会を設け、管理者から運営者へと相談し業務に反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務変更等を行い業務、利用者の援助に支障がないように話し合い、調整を行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職に伴うユニット間での異動は行なわれているが、職員間の引継ぎを行ったり、利用者の混乱をまねかないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修時は勤務体制に配慮しており、受講後は報告書を作成して伝達研修を行うなど、全職員に周知している。	○	勤務として外部研修に出せない事もあり、休暇を使って参加する方もある。できるだけ出勤扱いで出来るようにシフトを作成していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人で実習生を受け入れた。自らのケアに対する振り返りとなった。	○	同業者との交流をしたいと思うが、グループホーム同志のライバル意識があるように思える。運営推進会議を通して地域包括支援センターに相談していきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は直接職員と接し、利用者の状況確認しながら職員の相談を受けている。管理者からの相談を受け必要に応じてアドバイスをしている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修内容やヒヤリハットの報告を受けアドバイスを。管理者が研修の参加を促すことに対し解しホームの資質向上に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居決定前に家族、本人と面談をもち、施設の見学、施設の概要等説明。困っている事、不安な事などを聴き、当施設でできる範囲の事など説明している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険サービス外の権利擁護の内容や施設と他の機関との連携の内容なども説明し、本人に関わる全体のことに対応できるよう努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	多く面会に来てもらえるようお願いをしている。本人から納得が得られているのかは定かでない。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に作業を行なう事を通して一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを共感できるように、面会時家族に情報交換を行ない、家族の思いを把握できるように職員全員が心がけ関係を築いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「施設入所させている」という家族のそれぞれの思いを考慮し、家族と本人との関係が継続できるよう利用者に関わる施設での出来事を報告している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族の事情や住宅事情もあり、利用者を帰宅させるという事が全般的に少なくなり、馴染みの場所が途切れつつある。帰宅が困難でも親子の関係は深めてほしいという思いから家族が施設に宿泊する事を勧めている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、隣同士、性格的な状態も含め孤立する事がないように、職員が仲介となり会話など考慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時も、家族が思い悩み迷う事がないように次への相談できる機関を紹介し、施設からもその機関に直接働きかける。家族の不安が解消したのを見極めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いに近づくよう日々努めている。本人の意向に沿うようにしている。困難な場合は本人の意思に任せ見守る。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握する為に本人との会話から、家族から情報を得て生活歴を知るよう努めている。また、若い頃の写真を提供していただき生活環境を知る手がかりともしている。	○ 家族からの情報は不十分だと思われる。時間を要しても情報を得て、アセスメントの見直しが必要。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間を通じて変調がある場合でも申し送りを通して職員全員が周知している。毎日行なう体温、血圧測定、ラジオ体操においても見過ごすことなく拘縮の状況などの把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議で意見や気づきを基に話し合い、家族の意向を反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しを行なっている。また、利用者の状態などに変化がある時は随時の見直しを行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や身体状況、ケアの実践や職員の気づきを記録し、全職員が共有している。ユニット会議では職員全員が意見を出し、介護計画の見直しを行い本人の生活に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護、医療連携体制を活かした支援を行い、通所介護においても他の事業所と連携して支援している。医療連携体制では施設の看護師が医師との連携をとり、家族へは病状を分かりやすく説明している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などの時はボランティアに協力してもらい捜索などに関わる緊急時は警察、身体的なものは消防署の協力を得ながら利用者に支援しているという事が自覚できるようになってきている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通所介護においては担当者会議を通じて、その人ひとりを支援していくための他のサービスとの関わりをもつ事が多くあり、他の機関とも顔馴染みになる事で入所者の相談、退居者の相談でも話し合いがしやすい体制となっている。	○	管理者が行なっているので、職員個々ではサービス等の流れは把握しているが直接交渉することはない。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	浪岡内の事業所会議が月に1回開催されており、地域包括支援センターでは権利擁護や成年後見制度のことも理解しており積極的に相談できる。事例などを通してアドバイスをいただき協働している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院から退居となる場合でも十分な話し合いを行い、納得したうえで退居としている。退居後も家族の相談に対応し、他の施設間での情報交換も行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を「さん」付けで呼ぶなど、一人ひとりの尊厳を傷つけないように心がけて支援している。	○	個人情報の取り扱いについては説明してあるが全職員が理解しているかはわからない。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの認知症の程度を考慮して働きかけている。食事においては主食を選択、掃除する、しないの決定、排泄時の誘導については意思を確認している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のケア、在宅での様子、過去での生活状況等を家族、本人より聞き取り総合して個々のペースを大切にし、その日の過ごし方を希望に近い状態で過ごしていただくよう努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族と外出した際、本人の望む理容院を利用していただいたり、温泉での入浴も自己決定し、職員が対応困難な時は家族に対応以来することもあ		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に野菜の皮むきをしたり、下膳やお盆拭きを行なう。食べる事に対しては抵抗する事なく、楽しんでいると思う。	○	ほとんど全量摂取するため、好みを把握する事無く提供している。好みを聞きながら満足しているのかも聞く。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは家族持参された物や、本人自ら購入した物をお出ししている。体重コントロール必要な方には量を控えめにし席の配置にも配慮している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁によって、不快等の感覚を持ってもらう為に極力紙おむつ使用を控えている。病状や内服薬によって使用する場合でも午前、午後と分けて使用する場合もある。おむつを使用している場合も時間を決めトイレへの誘導は行なっている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴となっており、お湯の温度を調整するなどの対応を行っている。また、入浴を拒否する利用者に対しては、時間をずらしたり別の職員が声掛けするなどの工夫を行なっている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンに応じて医療機関と相談しながら眠剤の服用などについて調整を行なっている。寝付けない入居者に対して付き添うなどの対応を行っている。		
利用者との				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室の掃除や食後のお盆拭きなど、役割を持てるよう働きかけているが不十分である。	○	ドライブなどもっと気晴らしの支援が必要と思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりに応じて所持したり管理しているが、ほとんどの方が預けており、支払いも預かったお金から職員が対応している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望時、散歩したりドライブに行くが、シフト上希望にそっては出かけられない状況。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話から懐かしい話しをし利用者の若い頃の想いをくみ取り行きたい場所を把握する場合がある。施設で出来る事は計画をし、また家族へ話しの内容を伝え、本人に代わって家族でできる範囲の事を要望する場合もある。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務室の電話は自由に利用させており、帰宅願望がある方には家族へ直接電話をし、家族との会話で安心できる方もおられる。正月など年賀状を個々に作成し投函している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	地域の特徴から、自宅が農家の方などは日中忙しく面会時間が遅くなったり早かったりする事もあるが、家族以外でも本人と面会していただくのが大切と職員の意識は統一されており、気軽に施設へお出でになれるような心構えでいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現実に入院退院を繰り返した事例があり、入院中拘束を受け、施設では拘束解除される事により施設で暮らすと活気を取り戻す。職員は事例を通して認知症の方が拘束に受けることによって身体的、精神的ダメージがある事を身近で感じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けておらず、利用者の状況を察知できるようお互い声をかけあって見守りしている。察知した時は職員が付き添うなどの支援を行なっている。やむを得ず施錠する場合は家族に説明して同意を得るほか、無断外出時に備えてホームの対応や近隣のコンビニ、警察署等からの協力体制を整えている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の様子を、交代時も職員同志声を掛けあって連携をとるようにしている。利用者に関わける内容によっては小声で話すよう気を配っている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は利用者の手の届かない所や、鍵のある場所には取りきめて保管している。裁縫する方の用具は施設側で預かり、必要なとき本人に利用していただいている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、想定される事故をユニット会議や日々の申し送り時検討。ヒヤリハット、事故報告書の様式が整備されている。常に目配り、気配りを怠らず職員間での声掛けに努めている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や緊急時の対応のマニュアルが作成されている。応急処置や救急救命の訓練を行なっている。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した避難訓練を利用者と一緒に年2回行なっている。また、災害時に近隣からの協力が得られるよう、運営推進会議の時に話し合いを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ユニット会議で事前に一人ひとりに起こり得るリスクを話し合っており、家族に利用者の状態の変化に伴ってのとリスクも伝えている。家族も理解し、了解も得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の血圧、体温、食事、排泄、水分量などと月1回の体重測定の記録を行い、体調変化の発見に努めている。変化がある時または予想される時は看護師に報告、相談、必要に応じ家族にも報告し受診などの対応を行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者の薬の内容は各ケース記録に貼付、把握されている。飲み忘れや誤薬等がないよう支援体制が整備されている。服薬による状態変化時は看護師に報告している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く摂取、歩行運動を促すなどの自然排便を促す工夫を個別に行なっている。また、腹圧をかけられるよう付き添って指示したり、腹部マッサージを行なう事もある。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員も口腔内の清潔保持の意義を知っており、毎食後のうがい、義歯洗浄を行なっている。嚥下体操も行い、清潔の保持に努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分の摂取量を記録している。栄養のバランス、見た目の色どりも考えて献立となっており、一人ひとりの病状によりカロリーを考え、個々の噛む力や義歯の状況によってキザミにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し、学習会も行っている。また、外部研修にも参加し内部研修として発表し理解を深めている。感染症に関する情報は手紙などで家族にも周知している。昨年には肺炎球菌ワクチンも家族の了解のもと全利用者が接種して肺炎の予防に努めている。	○	3月ノロウイルスが感染し、保健所の指導もあり、更に感染について学習した。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いと掃除の徹底。調理前の衛生管理表によるチェック項目で確認後調理を行なっている。食器洗浄機による高温洗浄を行い、調理器具は除菌剤などを使用し消毒に努めている。食材は期限を確認し、作り置きすることなく、調理後提供している。	○	ノロウイルス後、特にハイターの濃度にも気をつけるようになった。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車スペースも広く、玄関前にはベンチがあり気軽に座って風景を楽しむ事ができる。玄関にはトレードマークである絵がついたマットが敷いてあり、花や観葉植物が飾られ穏やかな気持ちで出入りできるよう工夫している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファやテーブル、椅子などが設置しており、テレビ等の音量、室内の明るさなどは調整している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んでソファを備えてあり、椅子など気の合う入居者同志が好みの場所で過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居時等に馴染みの物を持ち込んでもらうよう働 きかけている。また、居室一人ひとりにトイレ、 洗面所が備わっているため他の人に気兼ねするこ となくゆっくり過ごせる。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度、湿度は日に最低2回はチェックし記録して いる。利用者に問いかけ体感温度よっての温度 調整にも配慮している。換気に対しても感染予 防や気分転換も考えこまめに行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	各居室にはトイレ、洗面所、衣装ダンスが備え付 けられている。トイレ、廊下、ホールと至る所に 手すりが取り付け、廊下も広々として仲間同志で 一緒に歩行できるようになっている。脱衣場、浴 室にも数ヶ所手すりがあり、シャワーチェアを 利用して身体機能を活かしていただける工夫をし ている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ホールの自席や居室を迷わないように他の方と区 別しリボンの花など目印にしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	外気浴の際に花壇に植えてある花を摘んだりして 楽しまれたり、畑からの枝豆やじゃが芋などの収 穫を楽しんだりしている。玄関にあるベンチなど では思い思いに使用し、気のあった仲間同志で 会話を楽しまれたりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)